

1. バングラデシュへの企業進出に、高地価などが障害

中国などでの高賃金に直面した韓国・香港・台湾などの巨大産業が、工場をバングラデシュに移転しようとしている。しかしバングラデシュでは、急激な土地の高騰、電気・ガスの不足のため、それらの進出を中断させている状態である。政府関係者は、「サムスンが50プロット(2000㎡=1プロット)、KANANNグループが150プロット、デエウーが30、レイモンドが20とそれぞれ、チッタゴンかダッカの輸出加工区(EPZs)に、土地を求めている」と話している。韓国のアルミニウム生産会社の社長は、「恐ろしく土地の値段が高くなったため、輸出加工区(EPZs)でプロットを利用することも、その地区外で土地を確保することも不可能である」と語っている。

政府の元顧問のアクバール・アリ・カンは、「低賃金労働力は海外の投資家を誘致するのに役立っていたが、ビジネス環境が不利なことが、この国への投資を躊躇させている。EPZの深刻なプロット不足と、投資者が工場の建設のための土地を借りたり買ったりすることに対する支援政策が存在しないことが、この国に投資することの妨げになっている。企業進出が少ないため、国内の有能者はバングラデシュを離れ、海外に職を求めている」と、語っている。

2. パドマブリッジプロジェクト進展状況

アジア開発銀行(ADB)と日本国際協力機構(JICA)はパドマブリッジプロジェクトのためのローンの有効期限を一ヶ月延長することを決めたことを関係者は、7/31に発表した。主な出資者であった世界銀行は、12億ドルのパドマブリッジプロジェクトのためのクレジットを取り消しにしている。「もし世界銀行がこの決定を考え直せば、約束されたローンは、世界銀行・アジア開発銀行・JICA・イスラミック開発銀行をあわせて23.5億ドルとなり、これは国の最大のインフラプロジェクトのために生かされることになるであろう」と、関係者は付け加えた。

3. コックスバザールに深海港建設計画

バングラデシュはコックスバザールのソナディアに深海港を建設する資金を集めるために、中国・インドおよびシンガポールからの投資を求めていると、8/04、関係筋が報じた。

提案された深海港のためのコーディネーターとチッタゴン港当局(CPA)の会長ナジム・ウディンは、海運省に最終決定をさせるために、「我々は地域の国々特に中国、インド、シンガポールからの投資を求め、政府の合意の下に港の建設したい」との書簡を送ったと発表した。政府高官も、深海港建設のためには、単独国からの投資よりも複数国からの投資の方が好ましいと見ている。今年の2月シーク・ハシナ首相は、海運相シャジャハン・カーンに港建設資金のために複数の投資家を見つけるように指示した。それは3つの中国会社(チャイナ・マーシャンツホールディング・インターナショナル=CMHI、チャイナ・エンジニアリング=CAMC、およびチャイナハーバー・エンジニアリング)が強い興味を示した。しかし中国政府は、提案中の深海港の建設に関してCMHIだけをノミネートしている。

関係者は、提案中の深海港の地形・行政や外交的アセスメントのために1年かかるといっている。すでに2006年には、日本のパシフィック・ファームコンサルタントインターナショナル(PCI)が、実現可能調査を行っている。

4. 新輸出振興政策、内閣の承認待ち

2020年までに国の輸出収入を、現在の2倍上の500億ドルに押し上げるために、新輸出政策を策定すると商務省の関係筋は伝えた。しかし新政策はBGMEAやBKMEAにより要請のあった輸出向けの産業に、ガスや電気を供給する特別な優先権を用意することには反対している。

現在の政策における不要な部門を見直し、革、および革製品、冷凍魚介類、魚貝類加工品、工芸品、電気電子アイテム、新鮮な花、織機織物、薬用植物と薬、プラスチック製品、家具、プリントや包装、紙やゴムが、新しいアイテムとして推進部門に含まれることになった。バングラデシュ商工会議所(FBCCI)の会長AK・アザッドは政府の新輸出政策の策定に賞賛し、「貸出金利を低くすればもっと輸出型産業の推進に役立つだろう。私は貿易機関に代わって政府に対して、輸出を促進させるために銀行の利子のレートを引き下げることがを要求する」と、語った。

5. 輸出減少傾向に歯止め



バングラデシュは7月のアメリカへのニット衣料製品の出荷増加により輸出減少傾向を食い止めた。バングラデシュからの一か月毎の輸出は、国の最大の輸出相手国である欧州の債務危機により3月からマイナスの領域に入っていた。しかしバングラデシュの全体的な輸出は、アメリカ経済の回復で上昇してきた。7月にはバングラデシュは昨年と同じ時期より11.92%高い9,938万4千ドルのニット衣料製品を輸出した。

バングラデシュニットウェアメーカーおよび輸出協会の前会長ファズルル・ホックは、「コロンビアやベトナムのようなライバル国はうまくやっているが、バングラデシュからのニット衣料製品の輸出は下火になっている。欧州はバングラデシュのニット衣料製品の輸出先として最大であるが、新しい輸出先としてインド・中国・韓国・南アフリカ・オーストラリア・日本・メキシコ・ロシア・ブラジル・トルコなどをあげ、もっと輸出をするべきである」と、語っている。

6. 税関、8/16・17・18も業務遂行予定

輸出入業務が中断されないように、チッタゴン港も含めて全ての税関は、イードの日を除いてイード休暇の間も業務を行うことになった。税関は8月16・17・18日も開いているので、輸出入、特に既製服の輸出に関しては中断なしで行うことができる。先にバングラデシュ衣料メーカーおよび輸出協会(BGMEA)のリーダーたちは、政府にイード休暇の間も港を開けたままにして、輸出入がスムーズに行われるように対策を講じるように要請していた。今回の措置は、それに応えたもの。

7. スリカフィールドで新たな天然ガス層発見

バングラデシュ唯一の石油ガス発掘会社BAPEXは、「ダッカから約100キロ離れたところにあるコミッタのスリカイルの発見済みのガスフィールドから、新たなガス層が発見された」と発表。BAPEXは先に商業化可能な天然ガスを、同じガスフィールドの3,020メートルの深さのところで、7月13日に発見している。新しいフィールドは中ぐらいの規模で、可採埋蔵量は3000億キュービックフィート(Bcf)と思われる。BAPEXのスリカイルでの天然ガスの発見は、1989年から13年間に、4か所となる。BAPEXは2004年にスリカイルフィールドで発掘井戸を掘っていたが、その時には商業的に実現可能なガスは見つからなかったとファルックは言った。

8. 衣料製品産業関連ニュース

米国への衣料輸出上昇への懸念材料

シャフィウール・イスラム・モヒウッディン:バングラデシュ衣料メーカー輸出協会の会長は、「アメリカへの輸出が上昇したことは、アメリカ経済が順調に回復しているからである。アメリカへの輸出は我々に競争力のある限り上昇を続けるであろうが、バングラデシュよりもカンボジアやベトナムからのアメリカ向け輸出も急増しており、警戒しなければならない。今年の4月の労働者リーダー:アミヌール・イスラムの死に伴い、アメリカの労働権団体から労働法違反の抗議と、アメリカ政府へのバングラデシュ製品優遇制度の取り消しの申請があったことは、将来アメリカへの輸出にブレーキを掛けることになるかもしれない」と、語った。

輸出の増大・加速のためには高級衣料生産などへの移行が必要：世界銀行の調査報告から

バングラデシュの輸出全般を増大・加速させるには、既存のニット衣料製品の強みを強化するだけでなく、徐々に高価な衣服や他の輸出へ多様化することが要求されている。

世界銀行の調査報告は、「物流や技術を向上させ、労働基準のコンプライアンスを遵守が、既存の輸出の力を統合し、より価値のある製品に移行するという集中することが重要である」と、述べている。さらに報告では、「バングラデシュの衣料製品の輸出が大きく成長した一方で、残りの輸出産業はその量などが伸びていない。これは問題である」と指摘し、「バングラデシュの基本的な衣料分野での輸出競争力の優位性は、時間を掛けて伸張していったものである。今後は、バングラデシュの輸出成長の多様化のために、さらなる努力が重要であり、これはバングラデシュを中所得国にすることができる。またより高級な衣服の生産をすることやサービスの向上に向かい多様化すること重要である」と強調している。

アシュリア工業ベルト地帯の争議に関する衣料メーカーオーナーたちの発言

バングラデシュでの労働環境問題に対して関心が高まる中、7/31、「衣料メーカーはこの問題をまじめに取り上げ、職場環境を向上させ、工場内のコンプライアンスを維持することをはじめた」と、地元メディアが報じた。

バングラデシュ衣料メーカーおよび輸出協会(BGMEA)の会長シャフィウル・イスラム・モヒウッディンは、「多くの工場の労働基準や労働環境が向上している。バングラデシュの600の衣料工場が参加型の委員会を持っており、一方残りの5,500が工場を登録し厚生委員会を持っている。また全ての工場は労働者のために各工場に医療設備を持っている。また協会は、警察にバングラデシュセンターの労働者連帯のリーダーのアミヌール・イスラム殺人事件に関して公平な取調べを行うことを要求した。

労働者のリーダーたちは工場で、労働組合を立ち上げることを定期的に話し合い、現在、約130の工場で労働組合が新たに組織され始めた。しかし衣料メーカーのオーナーたちは、「労働者側から工場レベルで、そのような要求はない」と、語った。

7/31、バングラデシュ衣料メーカーおよび輸出協会(BGMEA)の会長シャフィウル・イスラム・モヒウッディンは、「6月に起きたアシュリアの労働者争議で、衣料工場が10日間閉鎖されたことは、世界で最も既製服の輸出が多い国としてのイメージを傷つけた。われわれは厳しく労働基準を守り、労働者たちに人道的に報いているのに、アシュリア工業ベルト地帯で繰り返される労働争議はわれわれに大きな損害を与えている。争議の間、多くの欧米バイヤーたちは彼らの注文を他の国に移すと脅した。労働争議の裏には、既得権益を持つ影響力のあるグループがいるのではないかとアシュリアの衣料工場のオーナーたちは疑っている」と、語った。

バングラデシュ経営者協会のファズルル・ホックは、「アシュリアの争議に対して、地元に影響のある政治家たちはなにもしなかった。また争議を軽減し、労働者に暴力をやめるようにと説得に行った労働者リーダーもいなかった」と話し、バングラデシュ輸出協会会長のアブダス・サラム・ムシェディは、「アシュリアを拠点にしている工場はモデル工場である。それなのに争議の大半がアシュリアで起きた。これは裏で工作する人間がいるとしか考えられない」と語り、バングラデシュニットウエアメーカーおよび輸出協会の副会長モハメッド・ハテムは、「工業ベルト地帯での暴力沙汰は、衣料工場で仕事をしようとする若者たちを思いとどまらせてしまっている。現在、どの工場でも25%の労働力が不足したまま再開している」と、話した。

バングラデシュ銀行、イード前に、ニット衣料製品メーカーに現金支援を約束

8/01、バングラデシュ銀行(BB)は、ニット衣料製品メーカーに現金援助を行い、イード・ウル・フィットワールの前に、このセクターで現金がないというようなことがないようにすると約束した。バングラデシュ銀行の副総裁S.K.スールとバングラデシュニット衣料製品メーカーおよび輸出協会(BKMEA)産業ロビイスト代表団の話し合いの後、この保証が約束された。代表団を率いたBKMEA 会長AKM セリムオスマンは記者会見で、「バングラデシュ銀行に、もし経済危機に直面した工場があれば、どの工場にも貸付するようにと要求した」と、発言した。

中国のアパレルメーカー、バングラヘアウトソーシング



中国での労働賃金の高騰により、世界最大の織物生産国の中国が、南アジアの国々にアウトソーシングを求め始めたため、バングラデシュのアパレル業界は大きな後押しを得ることになるだろうと、関係筋は伝えた。

中国のアパレルメーカーと世界のトップ小売業者は、中国での労働者賃金の値上がりに伴い、彼らの注文をバングラデシュに移し始めた。バングラデシュニットウェアメーカーおよび輸出協会(BKMEA)の前会長 M ファズルル・ホックは語った。中国最大のオンライン小売業者バンクルは、中国の急激な賃金値上がりのため、バングラデシュの織物メーカーにいくつかの注文を移したと関係筋は語った。

バンクルの生産マネージャーのリウ・ハオは、去年の秋の注文をバングラデシュに移したことを明確にした。しかし中国メディアには、どのくらいの生産が依頼されたのか正確な数字が発表されていない。昨年、中国では最低 23%労働賃金が高騰し、これが地元企業や外国衣料メーカーにプレッシャーとなり、労働者賃金の安いベトナム、カンボジア、スリランカやバングラデシュのような国々に注目するようになった。バングラデシュは比較的安い労働賃金と、中国の現在のコストの 30% でよりよい品質の生地を提供できる近代織物産業を、擁しているためアウトソーシングの人気の行き先となると、中国では見ている。

政府、RMG 労働者の手当の値上げの努力

政府は、工場オーナーたちが、現在の時点で賃金値上げを進んで実行していないので、代わりに「手当」の割合を引き上げることで前進したと関係筋は伝えた。

労働雇用省は、労働ディレクターと工場の調査責任者を、アパレル工場の持ち主と同席させ、家賃・オーバータイムなどのさまざまな手当の値上げを工場持ち主に説得させるように、要請させた。アパレル工場の労働者たちが、生活費の値上げを補うために、賃金値上げを求めたという背景に対して政府は新しい動きを見せている。

サバール地域で、アパレル工場の労働者たちが、数ヶ月前賃金や他の手当の値上げを要求し混乱を起こした。労働者たちは要求を掲げ、車やアパレル工場を壊し、警察と衝突した。その地域の多くのアパレル工場オーナーたちは、激怒した労働者たちから自分たちの設備を守るために、数日生産をストップさせた。織物衣料労働者協会の会長のアブール・ホセインは、「彼らの主な要求は賃金と他の手当の値上げである」と語った。ホセイン氏は「政府が手当の値上げに動いたことは歓迎する。しかしそれは少なくとも 30%の賃金値上げという我々の主な要求にはつながらない。」と付け加えた。

RMG 労働者賃金ボーナスを求め扇動

警察によると、8 / 11、首都にあるカルヤンプルで衣料工場の労働者たちが、イード前のボーナス支払いを求めて暴動を起こした。「我々は一生懸命働いた分の賃金とボーナスがほしいだけだ」と、衣料労働者ファルザナ・アクターは言った。情報によると、現場に警察が駆けつけ、この危機を解決するために工場経営側と話した。その後、工場のオーナーたちが賃金やボーナスを、8月13日と16日までにそれぞれ支払うことを約束したので、抗議していたアパレル労働者は抗議予定を取りやめた。一方、衣料工場主たちは、政府に対しイード前に、賃金とボーナス、オーバータイム分の賃金などを支払うので、衣料部門での争議の再発を防ぐように要求した。

労働者代表、労働者の賃金やボーナスをイードの前までに支払うよう要求

衣料労働者と産業の保護のために国民連合は記者会見で、8 / 13、既製服工場の持ち主たちに、イード前の労働者の解雇停止と、賃金とボーナス(イードを祝うため)を支払うことを要求した。彼らは、「外国のバイヤーやブランドに、労働者のためによりよい労働環境と人権を確保できるように、もっと積極的に行動するように要請した」と語った。

ILOのベターワークプログラム実施の検討

バングラデシュの衣料メーカーは、現在、国際労働機構(ILO)のベターワークプログラムをどう実施するか計画 중이다。これにより労働者と工場経営者のよりよい関係が築かれると思われる。ILOのベターワークプログラムのシニア計画顧問レジョ・シッベルとバングラデシュ衣料メーカーおよび輸出協会(BGMEA)の会長Md.シャフィウル・イスラムは、首都で行われた会議でプログラムの詳細を話し合った。BGMEAの声明によると2009年アメリカの労働省がバングラデシュ政府にILOのベターワークプログラムを実行するように指導した。これは、バングラデシュのビジネスチームが規定スキームの一般制度のもとでの義務の利点を理解するために、アメリカ通商代表部の公聴会に出席した際に呼びかけられたものである。

以上